

# 「現代的なリズム」選択 6割以上



広島大付属東雲中の生徒に現代的なリズムのダンスを指導する高田さん（右端）

本年度から中学1、2年の保健体育でダンスが必修になった。全国では6割以上の中学が、ヒップホップなどの音楽に合わせて踊る「現代的なリズムのダンス」を選択。広島県内でも指導が始まっている。  
(山本堅太郎)

## 中学1・2年必修化

人気グループのエクザイルの歌が体育館に響く。9日、広島市南区の広島大付属東雲中で2年生40人が、振り付けを考えた。広島大学院生で舞踊教育学を学ぶ、非常勤講師の高田康史さん(26)が指導する。ダンス経験者で、大学院でも現代的なリズムのダンスを研究している。基本のステップなどを教えた

# ダンス授業手探り

24.7.16 (1回)

後、生徒に振り付けを考えさせた。自由に表現し、自主性を発揮しやすい指導法を心掛ける。

文部科学省によると、必修化には早い時期から多彩なスポーツに触れ、コミュニケーション能力などを養う目的がある。高田さんは「ダンスを通じ、互いの違いを認め合う大切さも学んでほしい」と願う。

授業に取り入れるダンスは、現代的なリズムのダンス、創作ダンス、フォークダンスの中から学校が選ぶ。同省が各都道府県から



音楽に合わせて軽快なステップを踏むHDC日宇那ジュニア教室の小学生(広島市南区)

## 夢はアイドル 深まる興味

小中学生が放課後にダンス教室へ通う動きが、中国地方でもじわりと広がっている。授業への導入やテレビで活躍するグループの影響などが背景にある。

広島市東区を拠点に49教室を展開する「HDC」(三家本剛和代表)では現在、小中学生約280人が受講しており、この1年間で8割増えたという。6月から通う南区の小

## 教室通いの小中生増加

4年川田乃愛ちゃん(9)は「KARAみたいにかわいいポーズで踊りたい」とほほ笑む。「K.D.S」(中区、62教室)もこの1年間で6割増の約550人に。「サッカーからダンスに乗り換えた子もいる。技術を磨き、いつかはプロを目指してほしい」と広兼正清代表(34)。教諭向けのレッスンも近く始める予定で、学校での授業を通じたスキルアップにも期待を寄せる。  
(神下慶吾)

## 広島市教委、教員研修に力

## 専門家の講師が指導も

20校ずつ計940校を抽出した調査では、623校(66・3%)が現代的なリズムのダンスを選んだ。ダンスを得意とする歌手の人気が高く、興味を引き出しやすい点が決め手になっているとみられる。

一方、教員には「どう指導すればいいのかわからない」という不安もある。広島市教委は本年度に2回、教員向けの研修を開く。

高田さんも8月中旬に3回程度、広島大付属東雲中でワークショップを企画。戸惑う教員仲間にとつて教

える。高田さんは「大学院で学び、非常勤講師として実践を重ねた指導法を広めたい」と話す。

創作ダンス、フォークダンスはこれまでも体育の授業で取り入れられ、指導法

クリック  
ダンスの必修化 中学学習指導要領の全面実施に伴い、今年4月から中学1、2年男女で必修となった。学校ごとに「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」から一つ以上を選ぶ。文部科学省は、創作ダンスは「イメージを即興的に表現した動き」、現代的なリズムのダンスはロック、ヒップホップを例に挙げている。

もある程度確立されている。広島大学院の松尾千秋教授(舞踊教育学)は「現代的なリズムのダンスは、まだ模索している部分が多い。技術の習得だけでなく、幅広い世代に文化として根付くような指導のあり方を構築する必要がある」と話している。